

gram nine (株)

代表取締役

PICK UP

THE PERSON

中村 勝俊

KEY WORD

温もり

— nukumori —

小さいころから様々な事業を営む父親の後ろ姿を見て育ち、いつしか自分も事業を手掛けてみたいと思うようになった中村社長。サラリーマンの傍らネット通販のビジネスを始めて、ゼロから一歩一歩、世界とのネットワークを築き上げてきたという。「ネット通販は対面とは違い、お客様のお顔が見えません。その中で少しでも喜んでいただけるサービスを行っていきたい」と、手書きの手紙を添えるなど、「温もり」ある細やかなサービスにこだわっている。今後はさらに視野を広げ、新たな事業にも挑戦していく考えだ。



「ネット通販はお客様のお顔が見えない。
だからこそ、温もりを大切にしたいんです」

世界各国の厳選した化粧品に “人の手の温かさ”を添えて お客様のもとへ届けていく

化粧品をメインに、ネット通販を手掛ける「gram nine」。取り扱う商品は世界各国から輸入したもので、2010年の創業以来、順調に売上を伸ばしている。今後は特にオーガニックのものに力を入れていく考えだ。本日は女子プロレスラーでタレントのジャガー横田さんが訪問。中村社長と奥様である辻元マネージャーのお二人にインタビューを行った。



代表取締役
中村 勝俊

いきました。2018年には法人化も行い、今は輸入代行の会社を経由して、こちらから商品を卸してもらっています。

——着々とステップアップしてこられたのですね。商品はどちらの国から輸入されているのでしょうか。

(中) アメリカやイギリス、ポーランド、ポルトガル、インドなど世界各国のメーカーや商社とお取引させていただいています。当社では身体に良いオーガニック製品の輸入も行っておりまして、今後は石けんや美容品、雑貨などのジャンルでオーガニック商品を幅広く取り扱っていきたいと考えています。

——同業他社さんも多いと思いますが、その中で御社のこだわりは何でしょう。

(中) ネット通販はお客様と直接お顔を合わせることがありません。その中で少しでも喜んでいただけるように、温もりが伝わるようにと、商品と一緒に手書きのお手紙や、オーガニック石けんのサンプルをお送りさせてもらっています。お手紙はパートさんもお手伝いいただいで作成。また石けんも私たちの手で小さくカットして手作りでサンプルをつくっているんですよ。

——デジタルの中に、アナログ的な要素が



gram nine 株式会社

大阪府大阪市東淀川区小松 2-12-30 Grace 小松 1F URL: <https://gramnine.com>



マネージャー
辻元 由香

あるとホッとしますよね。これからもネット通販をメインに事業を展開していけるご予定で?

(中) はい。さらに新たな柱として、ハラル認証の事業に取り組んでいきたいと考えています。日本は、イスラム教徒向けの環境やサービスが、諸国と比べて不足していると言われます。そのためイスラム教徒の方々は、日本に来て安心して利用できるサービスがなくて困ることが多いんですね。そこで、イスラムで禁止されている豚由来の素材やアルコールを一切使わない、ハラル認証を得たアメニティをつくり、宿泊施設に置かせていただくことを考えています。現在コロナ禍でストップしてしまっている状態ですが、状況が変わればまた本格的に取り組んでいきたいですね。

——異なる文化同士をつなげる、とても素敵な取り組みですね!

(中) ありがとうございます。ハラル事業については、当社のみではなく、こうした取り組みが全国に広がっていくのは嬉しいですね。当社としては規模を大きくするよりも継続することを大切に、初心を忘れず、お客様に喜んでいただけるものを提供して参ります!



はじめに、中村社長の歩みからお聞かせ下さい。

(中) ここ大阪市の出身です。父は喫茶店や焼鳥屋、骨董品店、不動産会社など、様々な事業を手掛けていましたが、私は事業の継承について何か言われることもなく、好きな道へと進ませてもらうことができました。途中で協道にそれてしまった時もありましたが、その時も独立した後もあれこれ指図されるようなことはなく、自分の考えで歩みを進めさせてもらえて、本当に感謝しています。

——良いお父様に恵まれたんですね。社会人としてはどのような道程を歩まれて?

(中) 焼き鳥屋、ラーメン屋など飲食の仕事を経験し、接客サービスの奥深さに魅了されました。そしてコミュニケーションが好きだったこともあって、人とのつながりによる喜びを提供する仕事を模索するようになったのです。また、当時ITの進展が目覚ましく、「今後はITにより国境の壁もなくなっていく」と将来性を感じたことから、IT企業に就職したのが25歳の時のこと。一方で、経営者である父の姿を見て「自分で何かやりたい」との思いを持っていったことから、やがてIT企業で

世界各国のオーガニック化粧品も充実

▼「gram nine」で販売するのは、世界各国の化粧品。そのため国内のものとは異なることもあるという。たとえば国や州によって化粧品に入れられる成分が制限されており、日本で製造されている商品と同じものであっても、成分が異なることがある。また、コンシーラーやファンデーションなどは、国内生産のものは日本人の肌の色に合わせているが、国によってその基準は様々。そうした違いを踏まえた展開を行えるのが同社の強みだ。

▼同社はオーガニック化粧品も積極的に扱っている。ポルトガルの「エッセンシアス デポルトガル」は、100%オーガニックオイルを使用した、完全なオーガニック石けん。ポーランドの「プレスミー」は、メイクアップアーティストが考案した安全でマルチなスキンケアコスメだ。「日本ではまだオーガニック化粧品のニーズは少ないのですが、今後は力を入れて情報発信も行っていきたい」と意欲をみせている。

after the interview

ジャガー横田

(女子プロレスラー・タレント)

「中村社長も、奥様の辻元マネージャーもとても明るく、冗談も交えながらの笑いの絶えない対談でした。印刷ではない、手書きのお手紙を添えられているところも素敵ですね。リピーターさんが多いのも、そういったところが大きいのでしょう。今後も頑張ってください!」

——学んだノウハウを活かし、ネット通販事業を始めるに至りました。当時は中古のフィギュアやゲーム、DVDなどを扱い、自分に合った商品を模索していましたね。

——その中でやがて扱うべき品物が見つけて?

(中) ええ、妻のお陰で見つけることができました。妻と出会ったのはちょうど事業を始めたところで、いつしか仕事を手伝ってもらうようになったんです。その中で「化粧品を扱ってみてはどう?」と言われ、私も賛同。大阪は土地が高いため、広い場所が必要なものはコストがかかってしまうのですが、その点化粧品は場所を取らないことが強みです。何より、妻が英語に明るく、海外とのコミュニケーションもあったため、妻の力も得て、海外の良い化粧品を輸入・販売するようになったのです。

——それはショップの大きな特長になりま すよね。今も海外の化粧品をメインに扱っておられるのですか。

(中) はい。当社では品物のほとんどの仕入れを海外から行っています。ただ、当初は化粧品を扱うにも輸入をするにも全て許可が必要だということを知りなくて、そこから一つひとつ勉強をして体制を構築して